



わかやま

No.80

和歌山県精神保健福祉センター

2019年8月

社会福祉法人 やおき福祉会
理事長 柳瀬 敏夫

「紀南（西牟婁）地域の取り組みについて」

精神障害が「障害」という定義で位置づけられた「障害者基本法」の施行から25年、何もなかった地域の資源がこの25年間で大きく変わりました。当時を考えると、隔世の感がありますが、法令や制度をうまく活用し、不足する部分を開発してきた「地域の力」だと思っています。

現在、西牟婁には「紀南こころの医療センター」がありますが、当時は「紀南病院新庄別館」として、地域医療に力を注いでおり精神障害のある方が、地域で暮らし、受診できる体制を整えるとともに、活動することのできる「拠点づくり」を地域とともに構築してきた歴史を持っています。今ではネットワークという言葉が定着し、当たり前のように思われますが、実際に同じ方向を向いて連携するという事は非常に難しいことです。

この地域においてそうしたネットワークづくりの旗振り役を務めたのが「ふたば福祉会」です。「ふたば」が、小規模作業所から社会福祉法人を目指す過程で、障害者運動の根幹となる「理念」を共同で培ってきました。その理念は「障害のある人が安心して住める地域は誰もが安心して住める地域である」として、地域づくりを視点とした運動をすすめたことです。又、人を区分せず、障害の程度や種別にとらわれず「必要とする人の願いをもとにした運動」を大事にしてきました。そうした考え方が、紀南病院との連携を生み、「精神障害者の社会参加を進める会」の設置に繋がり、平成元年、精神障害のある人が通える作業所づくりへとすすんでいきました。これが紀南で初めての精神障害者小規模作業所「やおき工房」です。こうして「作業所」が生まれ、保健所や病院、ふたば職員、家族たちの熱意ある活動によって地域に馴染んでいく中で、最初数人だった利用者も多くなっていきました。人が増え、支援ニーズが広がり、更なる充実を目指してすすめたのが「法人認可運動」です。土地を確保するための市との交渉、建設費を捻出するための募金活動、イベントなどによる自己資金づくりなどを通し、平成8年10月、念願であった「社会福祉法人」となりました。冒頭で述べましたが、平成5年の障害者基本法の成立を受け、平成7年に、精神障害を含む3障害の施策に初めて数値目標を伴った「障害者プラン」が打ち出されていたことから、ちょうど時期を同じくして認可を得た「やおき福祉会」は、法人認可と同時に開設した「精神障害者社会復帰施設」である授産施設（やおき工房）、生活訓練施設（ゆうあいホーム）、地域生活支援センター（陽だまり）を基盤として、圏域全体に必要な資源を年度ごとに整備を重ねてきました。現在では、指定相談支援事業所（3か所）、障害者就業・生活支援センター（1か所）、就労移行支援（2か所）、就労継続支援B型（9か所）、グループホーム（15か所）、居宅介護事業（1か所）、短期入所事業（1か所）を圏域（田辺市、白浜町、みなべ町、すさみ町、上富田町）全体に広げ、全事業の利用者は、500名を超え、本当に多くの方が働けるようになりました。

しかしながら、現状を考えますと、まだまだ資源は充分ではないこと、それに加え、新たな時代の課題に向きあう必要が出てきています。そのひとつは「住まい」です。少子高齢化がすすんだことで障害の有無にかかわらず、単身生活者が増加し、本人の力では如何ともしがたい「住宅確保の問題」が生じています。保証人が得られないこと、家賃に手が届かないこと、障害があること、支払いの不安、看取りの不安などから家主から入居を拒否される等々、安心して住まいを見つけられない人たちが非常に増えているということです。

今後、法人はこうしたことをひとつの「地域づくり」課題として取り組んでいきたいと考えています。

和歌山県精神保健福祉センター

〒640-8319 和歌山市手平二丁目1番2号 県民交流プラザ“和歌山ビッグ愛”2階

☎ (073) 435-5194 FAX (073) 435-5193

◆◆「もくじ」は、3ページ下にあります◆◆



和歌山モデルの系譜

今年も7月25日に恒例の思春期セミナーを開催しました(詳細については4頁の開催報告をご参照下さい)。このセミナーはセンターが主催する研修事業の中で唯一、所長の企画によるもので、今年で10回目を迎えることができました。10周年記念企画ということでもありませんが、今回のセミナーに合わせて『児童青年の発達と「性」の問題への理解と支援～自分らしく生きるために～包括的支援モデルによる性教育の実践』(福村出版、2019年)を出版し、執筆いただいた先生方とシンポジウムをさせていただきました。この本は和歌山大学教育学部附属特別支援学校性教育ワーキンググループが提唱する地域包括的な性教育の「和歌山モデル」の教科書で、まさに和歌山の教員・支援者による、和歌山の子どもたちのための、和歌山の実践といえるものです。

オール和歌山の執筆者による実践的な包括的性教育の教科書を企画したときに、私の頭によぎったのは40年前にやはり和歌山の子育ての専門家たちが作った『1・2・3・4の5ろうちゃんー幼児教育の手引き書』(第一法規出版、1980年)でした。この本は和歌山県教育委員会の家庭教育(幼児期)相談事業で、お母さんからの相談に答えていた先生たちが、その後和歌山県幼児教育研究会として子育て支援のために出版したもので、幼児教育の「和歌山モデル」といえるものでした。研究会のメンバーには私の恩師である東雄司先生をはじめ、和医大や和歌山大学でお世話になった先生がおられ、それぞれのお人柄の表れた優しい助言がぎっしりと詰まっています。40年の歳月を経て、テーマは違いますが昭和の「和歌山モデル」の精神が令和の時代に引き継がれたような思いで、先達の導きに感謝しつつ、ひとり感慨に耽った夏でした。



和歌山こころのフェスタ2019

日時 令和元年11月23日(土)
13:00~13:40

会場 和歌山ビッグホエール メインステージ

■グループ活動紹介
内容 地域活動支援センター櫻
アポロッサム ジャンベ演奏

■表彰式
和歌山県精神保健福祉協会表彰式
「ほっとする笑顔つながるこころの絵」表彰式

■精神保健福祉センター展示ブース
「ほっとする 笑顔つながるこころの絵」
入賞作品展示(時間 10:00~16:00)

講演会

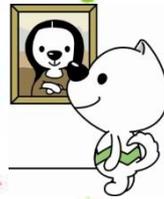
日時 令和元年11月23日(土)
14:00~15:30

会場 和歌山ビッグホエール(軽運動場)

■テーマ
「マンボウ家族のてんやわんやーこころの健康ー」
エッセイスト 斎藤 由香氏

なにかと生きづらい世の中で「元気で健康に生きるコツ」を一緒に考えてみませんか

「ほっとする笑顔つながる
こころの絵」大募集！！



和歌山県精神保健福祉協会は、人がほっとしたり
笑顔になるような絵を大募集します。

1 募集内容

- (1) 対象者 和歌山県内に在住、または通勤・通学している方であれば誰でも応募できます。
- (2) 規格 ①見る人の心をあたためる絵であれば内容は自由②応募は自作で未発表の作品お一人一点まで③応募作品サイズは（最小）はがき大～（最大）画用紙四つ切り大
- (3) 応募期間 令和元年9月13日（金）まで
- (4) 応募のしかた 作品の裏に、氏名（ふりがな）、年齢（学年）、住所、学校名（勤務先）、電話番号を明記した用紙を貼った上、下記和歌山県精神保健福祉協会「ほっとする笑顔つながるこころの絵」あてご応募ください。



2 入賞者

最優秀賞1名 優秀賞2名 入選若干名
※入賞された方には、賞状および副賞（図書カード）を贈呈。また、入賞された方には、10月下旬頃に文書にて連絡します。

3 表彰式

令和元年11月23日（土）に和歌山ビッグホールで開催する「こころのフェスタ2019※」において表彰式及び入賞作品の展示をします。

4 その他

作品の著作権は主催者に帰属し、応募者の承諾を得ずに啓発用教材に使用することがあります。ご応募頂いた作品は、令和2年1月6日以降に和歌山県精神保健福祉センターまで取りに来ていただければ返却いたします（要連絡）。また、入賞された方の氏名及び市町村名（在学中の方は学校名・学年）を発表します。予めご了承ください。個人情報については適正に取り扱い、本来の目的以外には使用しません。

※こころのフェスタ2019は、ふれあい人権フェスタ2019・りいぶるフェスタ2019と共同開催致します。

第16回精神障害者ソフトバレーボール和歌山県大会ボランティア募集！！

精神障害者ソフトバレーボール和歌山県大会は、精神障害のある人がスポーツを楽しみ、体力の維持・増進を図り、仲間とのふれあいを体験することによって、社会の障害者に対する理解をより一層深め、精神障害者の社会参加を促進することを目的として開催しています。この大会のお手伝いしていただけるボランティアを募集します。

主催 和歌山県精神保健福祉協会
共催 和歌山県作業療法士会
日時 令和元年11月29日（金）

保険 主催者においてスポーツ傷害保険に加入します

場所 和歌山ビッグウエーブ
選手 精神障害者保健福祉手帳の所持者
もしくはそれと同等の精神障害を有する者

ボランティア内容 試合の得点係、ライズマンなど

その他 昼食及びお茶をご用意します。

OUT!

申し込み締め切り 令和元年9月27日（金）

お申し込み・お問い合わせ先 和歌山県精神保健福祉協会
〒640-8319 和歌山市手平 2-1-2 和歌山ビッグ愛 2 階
精神保健福祉センター内 電話 073-435-5194 FAX073-435-5193

- もくじ P1 「紀南地域でのやおき福祉会の取り組み」
P2 シリーズセンター長だより／和歌山心のフェスタ2019／講演会のお知らせ
P3 ほっとする笑顔つながるこころの絵／ソフトバレーボール和歌山県大会
P4 和歌山メンタルニュース P5 活動報告 GA 和歌山「なごみ」
P6 はーとふるねっとわーく／編集後記

開催案内

和歌山メンタルヘルスニュース

【ひきこもり支援従事者研修】

「ひきこもり者に対する訪問支援の実際」
講師:南 芳樹氏
(南紀若者サポートステーション)

【日時】

令和元年 10月 29日(火)
13:30~15:30

【場所】

伊都振興局
3階 大会議室
(橋本市市脇4-5-8)

【日時】

令和元年 11月 8日(金)
13:30~15:30

【場所】

御坊保健所
別館 大会議室
(御坊市湯川町財部
859-2)



【アルコール健康障害 研修会】

【演題】『アルコールとのつきあい方』

【講師】 眞城耕志 氏

(岩出こころの診療所院長)

【日時】 10月 26日(土) 13:30~16:00

【場所】 岩出市総合体育館 小ホール

【参加費】 無料

先着 60名様(事前申込制)

11月10日から
11月16日は、
「アルコール関連問題
啓発週間」です

開催報告

和歌山県精神保健福祉センターが主催した研修会等のご報告です。

【思春期セミナー】

シンポジウム 「よりよく生きる」ための性に関する指導・支援

シンポジスト

藤田絵理子氏(和歌山大学教育学部)

森下順子氏(和歌山信愛大学教育学部)

岩田智和氏(和歌山県立仙溪学園)

鶴岡尚子氏(和歌山大学教育学部附属特別支援学校)

コーディネータ 小野善郎(和歌山県精神保健福祉センター)

とき 令和元年 7月 25日(木)

ところ 県民交流プラザ和歌山ビッグ愛201



セミナーでは、和歌山大学教育学部附属特別支援学校で始まった研究活動から支援ネットワークが形成され、地域包括的な性教育モデルを模索してきた結果、それぞれの立場や専門性の違う4人の先生から性教育の指導・支援の実践について報告していただきました。

乳幼児期から性意識へきちんとアプローチしてあいまいにしないことや多職種が連携・継続した性教育を実践し、あらゆる発達段階・地域での包括的性教育が必要とのお話でした。「性教育は幸せに生きるための人権教育」との話は、目からウロコが落ちたとの感想が聞かれました。

参加者は58名でした。

ギャンブラーズ・アノニマスとは、経験と力と希望を分かち合って
共通の問題を解決し、ほかの人たちもギャンブル問題から回復する
ように手助けしたいという共同体である。

(GA ギャンブラーズ・アノニマス -ミーティング・ハンドブックより)



体験談



数多いギャンブルの中で私が夢中になったものはパチンコとパチスロです。

初めてホールに入ったのは、昭和最後の年の高校1年生の時です。当時は100円から玉が買える時代でした。学校帰りに制服の上衣を着替えて寄ったりもしました。初めは、負けても数千円の範囲で、負けた金額の補填に漫画を売りに出したりしました。

大学浪人時代も予備校帰りにホールに立ち寄り、煙草に交換する程度の遊戯は続き志望校への入学は叶いませんでした。

大学時代はアルバイトでの収入があったため借金をする事はありませんでしたし、攻略法が通用する時代でしたのでオシイ思いをする事も度々ありました。

またパチンコ産業最盛期でホールでのアルバイトも経験してパチンコ浸りの生活を送りました。社会人になり信販系カードを手にするとキャッシング枠で種銭にしました。その枠を使い果たすと大手サラ金に行きました。無人の店舗で免許証をスキャンし勤務先に在籍確認電話が入り、あっという間に金が借りられるもんだと驚きでした。

2001年、結婚を期に親が貯めていてくれた貯金で借金を精算できました。この時の借金額は70万円くらいでした。

自営で仕事が好きだったので収入を減らす事はありませんでしたがギャンブルは止まりませんでした。借金が2度妻にバレ、夫婦生活もうまくいかなくなってきた頃に、嘘をつく自分に対して異常さを感じたのをきっかけに、自らGAへの参加を始めました。

GAへは足掛け8年通い、今は継続して4年ギャンブルを止められています。

ギャンブル依存症は病気であり、そのメカニズムを勉強した事が「継続して止められている」ことにつながっています。

カウンセリングにも妻と2人で何度か通いましたが、妻はギャンブル依存症を病気と捉えられず、「性格の問題」以外には考えてくれませんでした。

結局結婚生活15年で離婚となり、私は息子を見るシングルファーザー、娘は元妻と暮らしています。

今後とも「正直」、「思いやり」、「寛容」、「謙虚」と4つの性格改善を意識して継続してギャンブルを止め続けたいです。



ギャンブル依存症 ヒデ

GA 和歌山「なごみ」は、今から8年前(2011年6月3日)にひとりのギャンブル依存症者から始まりました。徐々にメンバーが増え、延べ年間500名以上の方々がこの会に参加しています。

「ギャンブル依存症」になると、本人が「本当にやめよう」と思ってもやめられない。何度もスリップ(再ギャンブル)を繰り返す状態が続きます。

病気を治すにはひとりでは無理です。GAのミーティングに参加することです。GAのミーティングに参加することで、自分自身の心があらわになり、正直な自分と向き合うことができます。そして、同じような悩みを持ち、同じような境遇の人たちとお話することで、気持ちを「分かち合う」ことができます。最初のミーティングに参加することで、心が和らぎます。是非とも私たちのミーティングに参加してください。

メンバー全員で心よりお待ちしております。(^^)

GA和歌山「なごみ」のミーティングのご案内

○毎週金曜日 午後7:00~午後8:30

(遅れても大丈夫です。時間までお待ちします)

毎月第2金曜日(オープン・ミーティング、当事者以外の方でも参加できます)

(その他の週は、クローズ・ミーティング、当事者のみの参加となります)

○和歌山紀北教会 カトリック屋形町聖堂(2F会議室)

和歌山市屋形町3-33(駐車場無料)

○会費:無料(献金は自由です)

・詳しくはブログをご覧ください

<http://www.gajapan.jp/meetingplace/jicac-wak.html>

<http://www.gajapan.jp/>

(GAインフォメーションセンターで検索できます)

○連絡先:090-5128-8209 やす



精神保健福祉の第一線で働く関係スタッフの紹介コーナーです。
今回は、和歌山大学保健センター 精神保健福祉士 田島 準子さんです。

はーとふるネットワーク



ー精神保健福祉士になったきっかけは？

人と関わることが好きで、心理学にも興味があったので心理学を学べる大学に進学しました。

大学入学後、初めて精神保健福祉士という仕事を知り興味を持ちました。実習で、精神疾患を持つ方と実際に関わり、仕事内容を実際に見させて頂いたことで、私も精神保健福祉士として、より良い地域生活が送れるような支援に携わりたいと思いました。実習で体験したことや、スタッフの方々が日々の業務や思いを丁寧に教えて下さったことが、大きなきっかけとなりました。実習先のみなさんには、今でも本当に感謝しています。

ー和歌山大学保健センターは、どのような機関ですか？

和歌山大学保健センターは、学生と教職員の身体的・精神的な健康増進に携わる機関です。内科医・精神科医・保健師・臨床心理士・精神保健福祉士が所属し、より健康的で快適な生活が行えるよう、情報提供や身体的・精神的な相談支援も行っています。

ケガをした時や体調が悪い時は、診察や（限りはあるのですが）必要に応じて投薬・応急手当が無料で受けられます。また、保健センターから他の医療機関を紹介する場合は、必要であれば、医師より紹介状も用意しています。

人間関係が苦手な学生向けの集団療法やカウンセリングなども行っています。不安を抱える学生がお互いに助け合う、自助グループの活動等も行っています。

ー具体的な支援について教えてください

大学生の方が抱える悩みや不安はそれぞれ異なりますが、ご本人の思いに寄り添い、ご本人にとってより良い大学生活がおくれるような関わりができればと思っています。また、必要であればご本人の了解のもと、大学内の他部署の方や外部の方との連携も行っています。5月から働きだしたばかりで、大学のシステム等分からないことが沢山で戸惑うこともありますが、大学生の若いパワーを貰いながら元気に仕事をさせて頂いています。



自殺予防週間



9月10日は世界自殺予防デー・9月10日から9月16日は自殺予防週間です

編集後記

いよいよ東京オリンピックまで1年を切りました。来年、2020年7月24日（22日から競技は始まっているようです）から8月9日までの17日間で開催されます。大きな課題のひとつが「暑さ対策」といわれています。今年の夏もとても暑く、来年も猛暑が予想され心配です。暑さ対策といえば、今年は「手持ち扇風機」が大流行で、持って歩いている人を多く見かけました。・・・私はもっぱら団扇派です（笑）



ー今後の抱負について教えてください

悩みを抱えているのに、誰にも相談できずにいる学生への支援にも、取り組んでいければと思っています。

今はまだ、保健センターにいることも多いのですが、保健センターだけでなく、他の職員の方や学生の方と関わり、何かに悩んだ時や不安な時は相談できる所があるという事を、もっと広めていければな～と考えています。困った時に、ふと思い出してもらえるような、そんな精神保健福祉士になることを目標に頑張っています。



ー最近のトピックスは？

数年ぶりにUSJへ行ってきました。数年ぶりということもあり、朝5時半に出発し21時の閉園までおもいっきり遊んできました。すごく疲れましたが・・・、ミニオンやスヌーピー、セーラームーンに癒され、乗り物や初めてのハリーポッターでテンションを上げてもらい、USJを満喫してきました。家に帰って冷静になると、いらなかったかな？という買い物が多々ありましたが・・・。気分転換できた1日でした。

ーありがとうございました。次の方のご紹介をお願いします。

潮岬病院の大藤さんをご紹介します。
私が、大変お世話になっている大先輩の長島さんが、今年の5月から潮岬病院で勤務されています。長島さんと一緒に勤務されている、精神保健福祉士の大藤さんをご紹介します。長島さんが、大藤さんにインタビューし、原稿を書いてくださるとのことです。今後、長島さんと大藤さんと一緒にお仕事できれば嬉しいなと思っています。
よろしくお願いします。